



## F コマンド

この章では、F で始まる Cisco NX-OS セキュリティ コマンドについて説明します。

### feature (ユーザ ロール機能グループ)

ユーザ ロール機能グループに機能を設定するには、**feature** コマンドを使用します。ユーザ ロール機能グループから機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**feature** *feature-name*

**no feature** *feature-name*

シンタックスの説明	<i>feature-name</i> <b>show role feature</b> コマンドの出力に表示される NX-OS 機能名				
デフォルト	なし				
コマンド モード	ユーザ ロール機能グループ コンフィギュレーション				
サポートされるユーザ ロール	network-admin vdc-admin				
コマンド履歴	<table><thead><tr><th>リリース</th><th>変更内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>4.0(1)</td><td>このコマンドが導入されました。</td></tr></tbody></table>	リリース	変更内容	4.0(1)	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
4.0(1)	このコマンドが導入されました。				
使用上のガイドライン	このコマンドで使用できる有効な機能名を表示するには、 <b>show role feature</b> コマンドを使用します。 このコマンドには、ライセンスは不要です。				

## ■ feature (ユーザ ロール機能グループ)

**例**

次に、ユーザ ロール機能グループに機能を追加する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# role feature-group name SecGroup
switch(config-role-featuregrp)# feature aaa
switch(config-role-featuregrp)# feature radius
switch(config-role-featuregrp)# feature tacacs
```

次に、ユーザ ロール機能グループから機能を削除する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# role feature-group name MyGroup
switch(config-role-featuregrp)# no feature callhome
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<code>show role feature-group</code>	ユーザ ロール機能グループを表示します。

# feature cts

Cisco TrustSec 機能をイネーブルにするには、**feature cts** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**feature cts**

**no feature cts**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** ディセーブル

**コマンド モード** グローバル コンフィギュレーション

**サポートされるユーザロール** network-admin  
vdc-admin

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドを使用するには、**feature dot1x** コマンドを使用して Cisco TrustSec 機能をイネーブルにする必要があります。



**(注)** Cisco TrustSec 機能には、ライセンス猶予期間はありません。この機能を設定するには、アドバンスド サービス ライセンスをインストールする必要があります。

このコマンドには、アドバンスド サービス ライセンスが必要です。

**例** 次に、Cisco TrustSec 機能をイネーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# feature cts
```

次に、Cisco TrustSec 機能をディセーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# no feature cts
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>feature dot1x</b>	802.1X 機能をイネーブルにします。
	<b>show cts</b>	Cisco TrustSec のステータス情報を表示します。

# feature dhcp

デバイス上で DHCP スヌーピング機能をイネーブルにするには、**feature dhcp** コマンドを使用します。DHCP スヌーピング機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**feature dhcp**

**no feature dhcp**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** なし

**コマンド モード** グローバル コンフィギュレーション

**サポートされるユーザロール** network-admin  
vdc-admin

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** デフォルトの設定では、DHCP スヌーピング機能はディセーブルです。

DHCP スヌーピング機能をイネーブルにしないと、DHCP スヌーピングの関連コマンドを使用できません。

ダイナミック APR インスペクションおよび IP ソース ガードは、DHCP スヌーピング機能に依存します。

DHCP スヌーピング機能をディセーブルにすると、デバイス上のすべての DHCP スヌーピング設定が廃棄されます。DHCP スヌーピング設定を保持したまま、DHCP スヌーピング機能をオフにした場合には、**no ip dhcp snooping** コマンドを使用して、DHCP スヌーピングをグローバルにディセーブルにします。

このコマンドには、ライセンスは不要です。

**例** 次に、DHCP スヌーピングをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# feature dhcp
switch(config)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<code>clear ip dhcp snooping binding</code>	DHCP スヌーピング バインディング データベースをクリアします。
<code>ip dhcp snooping</code>	デバイス上で DHCP スヌーピングをグローバルにイネーブルにします。
<code>service dhcp</code>	DHCP リレー エージェントをイネーブルまたはディセーブルにします。
<code>show ip dhcp snooping</code>	DHCP スヌーピングの全般情報を表示します。
<code>show running-config dhcp</code>	IP ソース ガード設定を含む、DHCP スヌーピング設定を表示します。

# feature dot1x

802.1X 機能をイネーブルにするには、**feature dot1x** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**feature dot1x**

**no feature dot1x**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** ディセーブル

**コマンド モード** グローバル コンフィギュレーション

**サポートされるユーザロール** network-admin  
vdc-admin

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** 802.1X を設定する前に、**feature dot1x** コマンドを使用する必要があります。



**(注)** 802.1X 機能をディセーブルにすると、すべての 802.1X 設定が失われます。802.1X 認証をディセーブルにする場合は、**no dot1x system-auth-control** コマンドを使用します。

このコマンドには、ライセンスは不要です。

**例** 次に、802.1X をイネーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# feature dot1x
```

次に、802.1X をディセーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# no feature dot1x
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show dot1x</b>	802.1X のステータス情報を表示します。

# feature eou

Extensible Authentication Protocol over User Datagram Protocol (EAPoUDP) をイネーブルにするには、**feature eou** コマンドを使用します。EAPoUDP をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**feature eou**

**no feature eou**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** ディセーブル

**コマンド モード** グローバル コンフィギュレーション

**サポートされるユーザロール** network-admin  
vdc-admin

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** EAPoUDP を設定する前に、**feature eou** コマンドを使用する必要があります。



**(注)** EAPoUDP をディセーブルにすると、NX-OS ソフトウェアにより EXPoUDP 設定が削除されます。

このコマンドには、ライセンスは不要です。

**例** 次に、EAPoUDP をイネーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# feature eou
```

次に、EAPoUDP をディセーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# no feature eou
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>feature eou</b>	EAPoUDP をイネーブルにします。
	<b>show eou</b>	EAPoUDP 情報を表示します。

## feature port-security

ポートセキュリティ機能をグローバルでイネーブルにするには、**feature port-security** コマンドを使用します。ポートセキュリティ機能をグローバルでディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**feature port-security**

**no feature port-security**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** なし

**コマンド モード** グローバル コンフィギュレーション

**サポートされるユーザロール** network-admin  
vdc-admin

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** デフォルトの設定では、ポートセキュリティはグローバルでディセーブルです。

ポートセキュリティは、各 Virtual Device Context (VDC; バーチャルデバイス コンテキスト) に対してローカルです。必要に応じて、このコマンドを使用する前に、対応する VDC に切り換えてください。

このコマンドには、ライセンスは不要です。

### ポートセキュリティのイネーブル化

ポートセキュリティをグローバルでイネーブルにすると、ポートセキュリティに関連する他のすべてのコマンドが使用可能になります。

ポートセキュリティを再イネーブル化する場合、ポートセキュリティが最後にイネーブルだった時点のポートセキュリティ設定は復元されません。

### ポートセキュリティのディセーブル化

ポートセキュリティをグローバルでディセーブルにすると、すべてのポートセキュリティ設定が削除されます。デバイスがアドレスをどのように学習したかに関係なく、ポートセキュリティのすべてのインターフェイス設定、およびすべてのセキュア MAC アドレスが削除されます。



## 例

次に、ポートセキュリティをグローバルでイネーブルにする例を示します。

```
switch# config t  
switch(config)# feature port-security  
switch(config)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>clear port-security</b>	ダイナミックに学習されたセキュア MAC アドレスをクリアします。
<b>debug port-security</b>	ポートセキュリティのデバッグ情報を提供します。
<b>show port-security</b>	ポートセキュリティの関連情報を表示します。
<b>switchport port-security</b>	レイヤ 2 インターフェイス上でポートセキュリティをイネーブルにします。

## feature tacacs+

TACACS+ をイネーブルにするには、**feature tacacs+** コマンドを使用します。TACACS+ をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**feature tacacs+**

**no feature tacacs+**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** ディセーブル

**コマンド モード** グローバル コンフィギュレーション

**サポートされるユーザロール** network-admin  
vdc-admin

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** TACACS+ を設定する前に、**feature tacacs+** コマンドを使用する必要があります。



**(注)** TACACS+ をディセーブルにすると、NX-OS ソフトウェアにより TACACS+ 設定が削除されます。

このコマンドには、ライセンスは不要です。

**例** 次に、TACACS+ をイネーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# feature tacacs+
```

次に、TACACS+ をディセーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# no feature tacacs+
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show tacacs+</b>	TACACS+ 情報を表示します。